

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：T.アルタンバガナ

氏名のローマ字表記：T.Altan Bagana

所属：千葉大学大学院・人文公共学府

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：「満洲国時代のプロパガンダ芸術に関する考察  
ー内モンゴル地域での宣伝活動を中心にー」

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表の目的は日本人が満洲国時代（1932年～1945年）に内モンゴルで行っていたプロパガンダ芸術について解明することである。

これまでの内モンゴルを土台にした満洲国のプロパガンダ研究では、チンギス・ハーン肖像と歌をめぐるナショナリズムの構成に焦点を当てていった。一方で、「チンギス汗劇」を含む演劇や映画など宣伝活動についての研究が少ない。本研究は満洲国の宣伝機構に焦点を当て、その宣伝活動に注目する。

満洲国時代に日本人はモンゴル人や他民族の統合と協力の下、中国人の反発に抵抗するために内モンゴルで「蒙古善隣協会」を、新京（現在の長春市）では「満映協会」を設立した。また、これら協会をつうじて「宣撫班」や「蒙古民族演劇研究室」などを作り、内モンゴルのモンゴル人に演劇活動を行った。具体的には「チンギス・ハーン軍歌」、「チンギス讃歌」、「聖・成吉思汗の歌」などの歌である。こうした活動はモンゴル人に日本の戦力の増大、皇道精神の向揚を図るためであった。しかし、モンゴル人は日本人のこれらの活動をきっかけにモンゴルの古来の音楽、民謡始め、モンゴル固有の言葉を使った新たな民族劇や文芸活動創作に目覚め、「チンギス汗劇」や「蒙古軍人の歌（法王進軍の曲）」などの歌や映画を創作するようになり、結果的に、モンゴル人が民族主義的なアイデンティティを構築するきっかけとなった。こうした民族主義的なアイデンティティが現在のモンゴル社会にも影響を及ぼしている。

本発表では、まず満洲国時代の宣伝機構について述べ、その次に日本人の内モンゴルで行っていたプロパガンダ芸術の内容と特徴を説明し、最後に日本人のプロパガンダ芸術がモンゴル社会に与えた影響について検討する。